

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホーム すまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第9地割39番地70		
自己評価作成日	令和6年10月15日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの近くには同法人経営の介護老人保健施設ほほえみの里やグループホームすまいる・グループホームたろうがあり、支援や協力を得やすい環境で安心して暮らすことができます。現在は、災害時や緊急時に地域の方々に駆けつけて頂ける体制を整えることに力を入れており、近隣ホームでの災害時地域受け入れ訓練にも参加し地域との協力体制の構築に努めている。利用者様・家族様・地域の皆様との繋がりや馴染みの関係を大切に、日課の中では個人の好みに合わせたレクリエーションや学習療法を取り入れたり、ホーム内行事やドライブなどの外出も全員参加で笑顔で楽しく生活できるよう努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道45号線そばのハザードマップ上も災害のリスクが低い閑静な住宅地にある。法人が運営する老人保健施設、認知症対応グループホーム2カ所が隣接し、災害や行事の際に法人内事業所が相互に協力する体制が整っている。管理者は防災士の資格を取得し地域防災士会に所属し、災害対応への具体的な助言を得て日々の備えに役立っている。令和6年8月には周囲が停電するなか、全館の電気を賄える容量を持つ自家発電機が、利用者の生活を支えてくれた。利用者に地元の方が多いこともあり、事業所の行事に地域の女性の方々がボランティアとして参加し一緒にドライブに行ってくれたり、近所の方からの食材の差し入があったりと助けられている。事業所としても町内会の新年会に参加するなど、交流が盛んである。コロナ禍が落ち着いてきているなか、少しずつ地域との交流が復活してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、問題が発生した際にはカンファレンス等で話し合い、理念に沿うよう努めている。	『いつも笑顔で「話」「輪」「和」とする理念は、これまで特に見直しはおこなわれていないが、管理者と職員との年2回の面談時やケアプラン見直し時のカンファレンスにおいて利用者の生活の変化などの話し合いを通じ、実践に当たって理念が浸透していることを職員で共有している。理念を随時確認できるようホール内に掲示し、利用者も共有できるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板等で地域活動の情報を得て参加。ホーム行事にも地域の方に声掛けし参加して頂いている。町内会長さん、地区の防災士会長さんとは常に交流に機会を作っている。	地元の方が入居されていることもあって、町内会の新年会に参加している。また、事業所の行事には、地元婦人会の方を中心にボランティアとして参加したり、また、近所の方が食材をお裾分けで持ってきてくれており、地元との関係構築が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会主催の認知症カフェに毎月参加し、寸劇や講話、相談者の対応等協力している。又、地域の方々の相談等も常時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、初めて法人内の3ヵ所のグループホーム合同の運営推進会議を開催し、3ホームの推進委員同士の顔合わせと情報報告、今後の協力体制のお願いもした。	運営推進会議を事業所のホールで開催し、利用者の方も近くで自然に聞くことが出来るようにしている。メンバーは、地区代表、民生委員、3名の家族代表、利用者、市担当職員、地域包括支援センター職員で構成されている。防災に関する話題が多く、その内容は、避難訓練や設備整備などに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは常時ホーム状況について報告・確認している。広報発行時には担当署に届けながら情報収集に努めている。	事業所の広報誌を発行した際には、運営推進会議メンバーの市担当職員に持参し、併せて行政情報を得るなどして連携に努めている。また、生活保護を受給をしている利用者もおり、担当ケースワーカーが面会に来訪し情報交換を行っている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず、利用者様が玄関に向かった場合はブザーが鳴り、職員が付き添い見守りできるようにしている。年1回はホーム内・法人内の勉強会において理解に努めている。	法人として身体拘束適正化委員会を設置しており、管理者が委員として月1回出席している。その内容は、その都度職員に回覧している。年1回、利用者への接遇も含めて身体拘束に関する研修を行い、職員の理解を深めている。身体拘束につながらないように注意しながら、人感センサーを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内・ホーム内の勉強会を開催。職員の理解・意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・ホーム内の勉強会を開催。職員の理解・意識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申請時に利用者と共に見学等自由にできるように受入れし、不安や疑問等はその場で解決できるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表には運営推進の出席で意見要望を聞き取り、その場で話し合うこともある。毎月送付のご家族様へのお知らせには、家族様の意見や要望など記入欄があるが、記入して返信されたことはない。	利用者からは、普段の生活の中で要望などを聞き取りしているが、運営に関してのものはほとんど聞かれない。家族からは運営推進会議の場で聞き取りしたり、生活の様子を記載した毎月のお知らせに、意見を記載できるように記入欄を設け、家族が意見を伝えやすい工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談時に、意見等聞く機会はある。管理者は、事務責任者と面談時や何かあればその都度話し合っている。	年2回管理者と職員が個別の面談を行っているほか、月1回業務会議を開催し職員の意見を聞いている。また、普段から業務に関し職員から忌憚のない提案が出され、管理者は、その都度法人幹部と話し合いを行いながら、具体化できるように努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内環境整備に職員の意見を聞き、備品の購入や修理等行っている。 個々の希望休や勤務時間、家庭状況等を考慮して働きやすいように勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、専門研修等は本人の力量を把握して参加を促している。資格所得のための法人のバックアップもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や本人が参加を希望する研修会等、勤務調整をして参加できるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申請の段階から担当ケアマネージャーより情報収集し、本人・家族の状況を把握。初回調査訪問時には不安を抱かないよう多人数でなく、顔なじみのケアマネージャーと訪問し、ゆっくりお話を聞く態度で接する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請の段階から担当ケアマネージャーより情報収集し、本人・家族の状況を把握。初回調査訪問時には不安を抱かないよう多人数でなく、顔なじみのケアマネージャーと訪問し、ゆっくりお話を聞く態度で接する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請時に担当ケアマネージャーより情報収集し、訪問調査にてご本人、ご家族の意向や要望を把握、他サービスの利用の有無を確認し利用があれば、サービス事業所の意見の聞き取りも行い、総合的に判断するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、個々の得意なことや知識を引きだし、共に作業したり教えて頂いたりしながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えるチームの一員であるご家族にも伝えている。事あるごとにお知らせし、相談したり判断を仰いだりしている。必要時には病院受診の同行もして頂いたり信頼関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会や外出や入居前からの主治医への受診等、自宅で生活していた時の関係が途切れないように支援している。	月1回程度、決まった家族の方の面会がある。知人の面会は、事前に確認が取れていない場合には、家族に確認することも行っている。近年は、コロナ禍の影響で、地域との関わりが少なくなっていたが、今年度、地域に居住していた方が入居したこともあり、徐々に地元の行事への参加を再開している。このことを通じて、利用者と地元住民が顔なじみになることを期待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもっている方は殆どなく、ホールで過ごしている方が多い。トラブルなく見守り、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された利用者様でも、その後の経過や状況を把握しながら、退院後の生活に支障がないよう、医療連携室との情報交換をしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談・生活歴の等の情報や日常会話の中から、ご本人の希望や意向を把握できるように努めている。意思表示のできる方が多いので、希望を確認し支援できるように検討している。	利用者のほとんどは、会話で意思表示ができるため、本人の話から思いや希望などを確認している。意思疎通が難しい場合には、日常生活の態度やちょっとした表情の変化、これまでの関わりの中から、本人の意思の確認、把握に努めている。	
----	-----	--	---	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査資料や担当者会議での情報でその方を把握し、課題分析表を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康観察を行い、普段と違った事があった場合は、その日の振り返りを行い、その原因を検討する。夜間の不眠等につながる事もあるため、申し送りノートや口頭で必ず申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで課題と短期目標について話し合い評価、見直しを行っている。家族に説明、同意を頂き現状に合わせた介護計画を作成している。又、状況変化があれば、すぐ家族に相談し立案している。	介護計画の短期目標を3ヵ月程度、長期目標を6ヵ月程度とし、担当職員のモニタリングを基礎に毎月カンファレンスを開催し、評価や見直しを行っている。利用者の介護度の進行や介護計画との齟齬が生じた場合には、計画期間に関わらず見直しを行っている。本人や家族に対しては、見直しの都度、内容の説明や確認を行い、同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日2回個別記録に記入している。普段と違うような時は随時記録し、申し送りノートにも記録する。些細な事でも職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況の変化があったときには、職員で話し合い必要であれば、家族の同意を頂く。緊急ショートステイの受け入れ態勢を整えており、利用者、家族に寄り添った柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お仕事体験や看護学生の実習受け入れ、近所の栗園へ栗拾いに出掛けたり、ブルーベリー狩り、サクランボ狩り、お花見、浄土ヶ浜へドライブ等、毎月行事を計画し、季節を感じて頂けるよう努めている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切に、殆どの方が馴染みのかかりつけ医への受診を継続している。スタッフも顔なじみである事で安心して受診し、不安な事はすぐに電話でも相談できる関係ができている。	症状の変化や、医療機関側の都合により、変更したケースはあるが、ほとんどの方が入居前のかかりつけ医を受診している。利用者のほとんどは、通院時に事業所で付き添っている。一部家族が対応をしている方については、通院に先立って職員から口頭で生活状況などについてお伝えしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師の来設時に普段の状態を報告している。体調不良時は24時間体制で緊急時も相談、指示含め対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、早期退院に向け、医師や医療連携室の担当者と情報交換をしている。又ご家族を含め安心して療養出来るように、可能な限り居室を確保している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期までの支援は行っていない。ご本人とご家族の意向や現状を検討し、他サービスへ繋げられるよう支援している。	入居時に重度化した場合の対応について説明している。医療連携体制が整備されていないこともあり、これまで事業所で看取りをしたことはなく、入浴や食事摂取が困難になった場合には、家族と協議し特別養護老人ホームへの入居申請を勧めている。入院や他施設への入居に当たっては、出来るだけの協力や支援を行っている。	医療連携体制整備の如何に関わらず、事業所として加齢による利用者の状態変化に対応できるスキルを習得する必要があります。については、職員に対し考えられる終末期の支援の在り方についての研修を実施することについて、検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による勉強会、救命救急講習会など定期的に受講している。急変時には連絡網で近隣の職員が駆け付ける体制ができている。		

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練や防災訓練、夜間緊急呼集訓練を実施している。地域、近隣施設も参加、協力体制を築いている。非常時の備蓄もある。	事業所のある場所は、ハザードマップ上災害リスクは少ない。年に1回、消防署立ち合いで火災想定避難訓練を実施しているほか、地域の防災士の方に立ち合いで避難訓練を実施し、助言などをもらっている。非常時の備蓄として、食糧3日分を確保しているほか、昨年自家発電機を設置し、停電時にあっても全館の電気が賅えるようになった。また、管理者が防災士資格を取得している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の認知症状を理解したうえで言葉の掛け方、声のトーンなどを工夫しながら一人一人にあった対応に心掛けている。	利用者それぞれの個性や、認知症状などの理解に努めたうえで、声掛けや対応を行っている。特に、トイレでの失敗など、見られたくないことや知られたくないことは、本人を傷つけないように配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、意思決定できるような声掛けや理解しやすいような選択肢を提示し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっているが、個々のその日の体調やそれぞれのペース等を大事に、無理強いせず、どのように過ごしたいかをくみ取り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の天候にあった服装が選択できるよう支援している。時には洋服を買いに出掛けたり、希望でクリームや好みの物を購入する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事食にはご本人の希望を聞き、好きなものを提供できるようメニューが選べるようにしている。又食材の下ごしらえや後かたづけ、茶碗拭き等職員と一緒にやっている。	食事の献立は、当日の食材を見ながら職員が調理している。食材は買い物に出かけているほか、近所の方などが、わかめなどの食材を持ってきてくれる。食事の際は、下膳や茶碗拭きを利用者にも手伝ってもらっている。また、市内のホテルの宴会場にて、新年会を兼ねた利用者の百寿のお祝い食事会を開催し、大好評を得ている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材や多くの食材を使用して食事を作るよう心掛けている。個々に合わせた食事形態と摂取量を考慮して対応している。水分補給には牛乳、ゼリー、麦茶、緑茶等で水分が十分に摂取出来るよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医又は、歯科衛生士の助言の元、毎食後の口腔ケアを一人ひとり声掛け・見守り・介助等行い、食事摂取状況により義歯の状態を確認し必要であれば歯科医受診し相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方には排泄パターンに応じたトイレ誘導・おむつ交換を行い失禁や汚染回数を減らすよう支援している。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、毎月開催するカンファレンスの際に、排泄介助の在り方について検討し、それに基づいてトイレ誘導やおむつ交換などを行っている。常時オムツを着用していた方が、リハビリパンツを使用しトイレ誘導を得て排泄できるまでに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、食事、水分量の把握をしている。排便のない方へは飲食物の工夫。散歩、軽体操を行うなど便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日入浴できるが、基本は一日おきに午後入浴。拒否がある方でも時間や職員が変わる事で入浴できている。	利用者は、1日おきの入浴で、1日につき4、5人程度が入浴をしている。入浴は、職員の配置状況に応じ午後としている。異性介助を嫌がる方には、希望があれば同性介助としている。入浴を楽しめるように、入浴剤を活用したり、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯などを提供することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状況に応じて遠慮しないでいつでも休めるように促している。又、個々の状態に応じて居室で静かに午睡出来るように支援している。季節に応じた寝具の手入れや入れ替えをしている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明、用法、用量については利用者毎にファイルし、通院録と合わせて確認出来るようになっている。薬によっては禁食もあり把握し支援している。又症状の変化を申し送り確認している。誤薬しないよう一包化にし、3重チェックにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが役割を持って、本人が出来る家事を行っている。その日の個々の様子でアプローチは変わるが、本人の意欲を引き出せるよう又、楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、個々の希望に沿うよう努めている。全員での外出の場合は、事故防止もあり、地域のボランティアの参加をお願いする事もある。	散歩として、近くにある公園を散歩したり、職員が近くにある法人の施設へ出掛ける際に一緒したりしている。特定の利用者だけであるが、買い物と一緒に掛ける時もある。天候や季節に応じて花見やサクランボ狩りや栗拾いなどにドライブしている。ドライブへ出かける際には、地元の方にも手伝ってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持している方はいない。ホームでは個人の所持金に関しては管理していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、家族等から希望があれば、いつでも対応している。ご家族から電話があった場合は電話で会話出来るよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を確認し、換気やエアコンなどを使用し快適に過ごせるよう努めている。観葉植物や花を置いたり窓からは庭の花を眺める事ができる。	日当たりも適度によく、外の様子も見えやすい造りとなっている。エアコンやパネルヒーター、加湿器などの空調設備が完備され、快適に暮らせるようになっている。日常生活の様子を撮影した写真や、書道などの作品が掲示され、適度な飾り付けで落ち着いた雰囲気がある。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム すまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを置き、座って過ごせる場所をいくつか作っている。それぞれ気の合った方と一緒に座り会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作った作品を置いたり、家族の写真を飾る等本人や家族の希望に沿って、居心地良く安心して過ごせるようにしている。	エアコンやパネルヒーターが完備され、快適に過ごせるようになっている。またクローゼットやベッド、洗面台が各部屋に設置され、テレビを持参し視聴することも可能である。家族の写真や、鼻疽にしている有名人の写真などを掲示している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示は見えやすくわかりやすくしている。居室のネームプレートは、個々に合わせ見やすい位置に取り付けている。居室がわからなくなっても自分で確認出来るようにしている。又常備灯をつけ夜間でも安心して移動出来るようにしている。		